

# 立体文化遺産の保存再生

## —CPによる立体物の測定から制作まで—

### 研究内容

文化遺産の保存再生は、従来の多くの労力が必要で制作時間や材料、人工が大幅に必要であったが、最新のコンピューター技術を駆使し、測定から制作までの技術のほとんどのところを補うことが可能となる。また、人の手による高度の複製は、職人の技量や時間の制限があるが、コンピューター技術を応用することにより、より忠実に再現できることへの研究である。さらに、昨今は、再生技術を伴ういわゆる職人は激減していることも有り、益々対応が困難になって来ている。

この様な、立体文化物(観音像、調度品など)を高精度に再生し作成することが可能となる研究である。



### 地域・産学連携の可能性

文化遺産は様々な理由で、博物館等に貯蔵されて残された御堂は神仏が不在の状態となる事例が多くみられます。また盗難や震災などによる「身代わり物」が必要とされる事例も増えています。

そこで、地域ぐるみで、その対策に乗り出し、貴重な地域遺産の活性化を図ることが、地域の遺産保護や保全、そして強いては、地域文化の貢献にも繋がると確信いたします。また、貴重な文化遺産を産学連携で調査研究し、文化遺産を発掘し保護する活動に繋がりたいと考える。



このテーマに関連するSDGs開発目標



ライフデザイン学部 生活デザイン学科 工業デザイン

**中島 敏** NAKAJIMA Satoshi

教授